

# BCP維持管理研究会 の活動

2012年4月18日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構 (BCAO)

BCP維持管理研究会 座長 深谷純子

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 研究会設立時の目的(2010年6月)

## 活動の目的

1. 策定されたBCPの**継続的改善**
2. BCPの**実効性向上**

## 背景

- ◆ BCPの形骸化が心配
- ◆ 教育・訓練等に課題を感じている
- ◆ 使えるBCPにしたい
- ◆ 組織や作成ドキュメントを見直したい

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 設立時に想定した研究テーマ

## 1. BCP維持組織に関する研究

- 本社と地域との役割 など

## 2. 教育・訓練手法に関する研究

- 訓練対象をサプライチェーンや地域に拡大
- 効果的な訓練方法 など

## 3. 複数BCP、関連他文書の維持管理

## 4. BCPの維持、実行性を高めるツールの研究

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 研究会の活動方針（2011年度計画）

**事業継続マネジメントのための手引書を作成する。**

**研究会メンバー各社での訓練・教育・監査等の取り組みを共有し、BCMで必要な作業を経験者の視点でまとめる。**

**東日本大震災を経験したことから、被災した企業、被災企業を支援した企業、それぞれの立場で、BCPをどのように見直したか、BCMの観点での調査を予定。**

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 2011年の活動メンバ

	氏名	所属
座長	深谷 純子	(株) 深谷レジリエンス研究所
副座長	中谷 昭男	(株) 富士通エフサス
	田中 弘明	SCSK(株)
	松本 茂	住友スリーエム(株)
	澤田 信人	元オリンパスメディカルシステムズ(株)
	佐藤 栄治	物産ロジスティクスソリューションズ(株)
	佐伯 和彦	(株) 建設技術研究所
	小田 浩史	富士通エフ・アイ・ピー(株)
	亀原 栄二	富士通エフ・アイ・ピー(株)
	窪谷 貴正	キャノンマーケティングジャパン(株)
	竹中 雅英	(株) 富士通マーケティング
	生田目 健	セイコーエプソン(株)
	林 祥光	NKSJリスクマネジメント(株)
	國貞 至	(株) リッジ

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 2011年度の活動実績

活動日	場所	内容
5/26	CSK青山本社	BCP維持管理手引書作成
6/23	BCAO事務所	BCP維持管理手引書作成
7/22	BCAO事務所	BCP維持管理手引書作成
9/15	BCAO事務所	BCP維持管理手引書作成
10/20	富士通FIP@テレコムセンター	被災地視察準備、ルート確認、質問確認
11/3-5	遠野・盛岡・仙台	被災地意見交換会（7名参加）
12/1	港区商工会館	被災地視察報告共有
1/16	BCAO事務所	BCP維持管理手引書作成
2/23	BCAO事務所	クロスロード訓練ワークショップ
3/29	富士通マーケティング@後楽園	活動の振り返り・次年度の活動計画

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

## 事業継続マネジメント(BCM) 維持管理のための手引書

### ◆事業継続計画(BCP)

事業継続を実現するための計画(書)

- ・大規模地震などの不測の事態発生時にも、重要業務を必要な時間内に再開・継続するために、必要な事前対策、組織体制や対応手順などを定め文書化したもの

### ◆事業継続マネジメント(BCM)

事業継続を達成するためのマネジメント(管理プロセス)

- ・事業継続計画の策定、実施運用、教育訓練により、点検・是正処置および経営者による見直しなど、BCPを継続的に改善し維持管理するための管理プロセス

2012年 4月4日

(仮版)

# BCP維持管理手引書

1. 概要	5. 経営者による見直し
1.1. BCP維持管理(BCM)の目的	5.1. マネジメントレビューの実施
1.2. BCM推進者の役割	5.2. アウトプット項目
1.3. BCM組織体制	6. 監査(審査)
1.4. BCM運用	7. BCM維持管理における課題
2. ドキュメント体系	7.1. 情報セキュリティ対策
2.1. ドキュメントの種類	7.2. 社内外との連携
2.2. ドキュメントの関連図	7.3. コスト管理
2.3. ドキュメントの概要	8. BCMで必要なツール
3. 教育・訓練	8.1. 維持管理システム
3.1. 教育・訓練の重要性	8.2. BCP発動時に必要なツール
3.2. 教育・訓練の目的・目標	9. サンプルドキュメント
3.3. 教育・訓練に必要な準備	9.1. 災害対策本部 組織体制と役割
3.4. 教育・訓練の種類	9.2. 訓練シナリオ
3.5. 教育・訓練内容と習熟度	10. 今後の取組み
3.6. 訓練(演習)スケジュール	10.1. 維持管理研究会の活動テーマ
3.7. 訓練(演習)シナリオの設計	10.2. 効果的な訓練(演習)
3.8. 訓練(演習)の実施	
3.9. 訓練(演習)に対する評価と見直し	
4. 点検・是正処置	
4.1. 目的	
4.2. 点検(評価)	
4.3. 是正(改善)	

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

## 教育 (気づき・啓蒙)

- ◆BCPの必要性に関する組織構成員の気づきの醸成

BCP基礎教育

重要性認識教育

e-Learning  
集合教育(研修)

## テスト及び訓練 (手順確認・徹底)

- ◆BCP関連設備の機能評価及び動作確認
- ◆手順書に従った内容確認と基本動作の習得

### テスト

- ・機能評価確認・試験
- ・操作実習(実技習得)

### 訓練種類

安否確認訓練

対策本部対応訓練

代替施設切替え訓練

システム切替え訓練

救急救命訓練

緊急広報訓練

机上訓練  
ウォークスルー

## 演習 (検証・改善)

- ◆BCPの有効性評価・確認
- ◆BCP課題と改善点の明確化
- ◆担当者の習熟度向上

### シミュレーション

- ・被災シナリオに基づいた危機管理対応  
(トリアージ・情報整理)

部門別演習

機能別演習

総合演習

ストリートワイド演習

サプライズ演習

机上訓練  
ウォークスルー

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 訓練評価項目

《訓練(演習)評価項目》 ※数値的に評価することが望ましい。

## ①訓練(演習)シナリオ

- ・訓練(演習)内容が事業継続計画と合致しているか？
- ・訓練(演習)の実施状況、訓練目的・目標に対する達成状況は？
- ・訓練(演習)の実施に対する問題点・課題は何か？
- ・参加者からの意見や提案内容は？(アンケートなどを活用)

## ②設備機器など

- ・事業継続の代替場所や施設は適切か？
- ・使用した設備機器は復旧作業に役立ったか？ 不足設備は無いか？
- ・設備機器は、仕様とおり正常に機能(稼働)したか？
- ・復旧能力向上のために必要な新規設備機器ないか？
- ・緊急時行動手順書に不備や追加が必要な項目はないか？

## ③習熟度(達成状況)

- ・目標復旧時間(RTO)に対する業務復旧状況は？
- ・習熟度(達成レベル)は向上したか？

臨機応変な危機対応能力、危機の兆候察知能力、情報収集・整理(分析)能力、  
優先順位(トリアージ)能力、戦略的な対応能力、冷静な状況判断能力 など

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 被災地視察 & 意見交換会

	目的	訪問先
11月3日 (祝)	被災地視察 復旧への課題の共有	気仙沼市、陸前高田市、 釜石市
11月4日 (金)	後方支援の役割と課題	遠野市沿岸被災地後方 支援室
	金融機関のBCPの実効性	日本銀行盛岡事務所
11月5日 (土)	被災時の報道機関のBCP	東北放送報道部

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。



**NIED**  
 独立行政法人  
 防災科学技術研究所  
 遠野活動拠点  
 http://fll.nied.go.jp/

大阪府堺市  
 現地支援本部  
 遠野事務所

友好都市  
 愛知県大府市  
 派遣職員駐在

友好都市  
 熊本県菊池市  
 派遣職員駐在

静岡県  
 現地調整  
 連絡所

大阪府  
 現地支援本部  
 遠野事務所

東京都  
 現地支援本部  
 遠野事務所

神奈川県  
 現地支援  
 調整本部

**東京大学**  
 THE UNIVERSITY OF TOKYO  
 東京大学  
 救援・復興支援室  
 遠野分室

神奈川大学  
 東北ボランティア駅伝  
 現地調整本部

立命館大学  
 災害復興支援室  
 遠野分室

災害派遣等従事車両  
 の証明書の交付は  
 岩手県遠野地区合同  
 庁舎で行うことができます。

東日本大震災  
 被災者相談窓口

遠野市後方支援  
 連携調整会議

遠野市役所西館庁舎 案内





**遠野市沿岸被災地後方支援室  
菊池保夫室長訪問**

# 日本銀行盛岡事務所 大山陽久所長訪問



# 全視察からの学び

- ◆BCMは、他のマネジメントシステムとは異なり日常業務に組み込みにくいいため、演習や訓練が重要である。座学的な知識では想定を越える多くの事象には対応できない。
- ◆アナログベースの訓練が大切、基本を繰り返すことで応用ができる。

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 今年度の活動方針

**「実行し確認する年、広げる年」**

**BCP維持管理手引書のブラッシュアップ**

- ・ **実際の企業で試行する**
- ・ **ISO22301との整合性確認**

**外部の施設見学**

**BCAO内外での積極的な交流**

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

# 4月・5月の活動

4月13日(金)

済み

- ANA安全教育センター見学 @下丸子
- 意見交換会 @大田区民プラザ

5月 (日程調整中)

- ANA羽田オペレーション  
マネージメントセンター見学
- 意見交換会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

特定非営利活動法人  
**事業継続推進機構**  
**BCP維持管理研究会**

A Specified Non-Profit Japanese Corporation

Business Continuity Advancement Organization (BCAO)

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。